

指導案

交通教育 NPO OSCN じてんしゃスクール
片山昇

尾張旭市 小学生自転車交通安全教室

1、学年・組 3年生 全組 組別実施

2、目指す子どもの姿

交通社会において自分の命を自分自身で守ることのできる子ども。

全小学校を対象に行った「小学校自転車交通安全教室実施に関するアンケート」（令和2年度）において、全9校中5校が、交通安全指導で困っている点について、「教師の目が行き届かない」ことをあげている。

目が行き届かない理由としては、歩行時については「登校時は、職員の勤務前にあたるため」「校内でのことと違い、教師の目が届かないため」「常に見守っているわけではないため」などがあげられている。また、自転車乗車時は「学校外のことなので、実態把握ができない」との回答がある。

教師の目が届かない所、また、保護者の同伴がない場所でも、子どもが安全に、この交通社会の中で生きていくために必要な教育は、何か。

それは、子どもが自分の命を自分自身で守るための安全確認の習慣を身につけることであると考えます。そして、その子どもたちが10年後、20年後に、自動車やオートバイを運転する時には、自分の命、そして他の人の命を守る行動がとれることを期待する。

3、本時における「安全確認を自分事として捉えることができるようになる学び」について

「小学校自転車交通安全教室」実施に関するアンケートにおいて、児童への重点的指導に「飛び出しをしない」「一時停止をする」をあげている学校が9校中7校あった。

保護者も子どもに「車に気をつけるのよ。」「よく見てね。」「飛び出さないのよ。」と声を掛けることがある。子どもがそれを自分事として捉え「何を、どう気をつけるのか。」「どこをどう見るのか。」「飛び出さないためには、どうするのか。」に気づくことができるようになることが重要である。

この授業では、「なぜ、飛び出してしまうのか。」を児童自身が考えることで、交通社会における行動を自分事として捉えることを学ぶ。

自分事として捉えることができなければ、大人に言われても「わかってはいたけど、できない」、あるいは、交通社会においてとるべき行動を理解していないので、そもそも「わかっていないから、できない」という行動結果になる。

児童自身が考えることで「わかっているから、できる」という行動を自ら行えるようになることが重要である。

登下校時やそれ以外の時間や場所、教職員や保護者同伴の有無などにかかわらず、事故にあわないために、児童自身が自分事として捉え、行動変容につながるような学習としたい。

4、「安全確認を自分事として捉えることができるようになる学び」を実現する為の手立て

交通社会において、安全に歩行者や自転車運転者として行動するには、いかにして自分事として捉えることができるか、ということが重要である。

そのために、児童にとって身近な校区内道路状況の写真を使用し、起こりうる事故について考えさせる。そして、交差点で飛び出しそうな要因を、自分だとしたら何があるか、を具体的に考えさせることで、より、自分事として捉えさせたい。

また、児童は、安全確認の仕方を、実際に体験を通して学ぶ。

このように、児童が自分事として捉えることで「わかっているから、できる」という行動変容につながると考える。

5、目標

- ・ 起こりうる交通事故について考える。
- ・ 「なぜ、飛び出してしまうのか。」を自分事として考える。
- ・ 事故防止のための安全確認動作を身につける。

6、展開

児童の学習活動	指導上の留意点	時間
1 自転車の整備につながるクイズ	ブレーキで確実に止まることの重要性にふれる。 (プロジェクター投影)	2分
2 視界の転換をして、場面（写真）の把握をする。 ・「空から見てみよう。」 ・場面の上からの写真を見て、見通しの悪い交差点において児童からは見えていない部分を把握する。 自動車・オートバイ・自転車・歩行者の存在。 ・飛び出さず「止まる」ことの重要性を理解する。	視界にあるものだけではなく、視界に入っていない部分の状況を予想することの重要性に気づき、「止まる」ことの意味を理解させる。 (プロジェクター投影)	3分
3 見通しの悪い交差点の場面（写真）を見て発生しうる事故について考える。 ・飛び出して、衝突。自動車・オートバイ・自転車・歩行者と。	自分たちの住んでいる地域の道路状況を提示することで、より具体的かつ、自分事として考えることができるようにする。 (プロジェクター投影)	3分
4 自分が飛び出しそうな要因について考える。 止まらないのは、どんな時だろう。 ・あわてんぼう。忘れやすい。 ・早く家に帰りたい。 ・友だちとのおしゃべりに夢中。 ・友だちやボールを追いかける。 ・約束があって、ウキウキしている。 ・約束に遅れそうで、あわてている。 ・車がいるとは思っていない。	自分の性格やありうる状況設定を含めて考えさせることで、自分事として捉えさせる。 「わかっているけど、できない」から「わかっているから、できる」への変容につなげる。 (プロジェクター投影)	5分
5 安全確認動作を身につける。 ・「右左右後ろ」の動作の意味を考える。 ・「右左右後ろ」の動作のみを体験する。	後ろを確認する必要性を気づかせる。 繰り返し動作をすることで身につけさせる。	2分
6 ヘルメットの大切さの話を聞く。	命を守るため、ヘルメット使用の重要性に気づかせる。 (警察官の話)	2分
7 ヘルメットの正しい装着方法を知る。	3つのポイントを説明する。	2分
8 <セーフティーコース> 自転車運転のつもりで、歩行による安全確認動作の習得。一人ずつ体験する。	「止まれ」の標識がない所でも見通しの悪い所、よい所でも止まって安全確認動作をすることを身につけさせる。	25分
9 まとめ		1分